

# Minami こども教室

## 2020 年度 事業報告書



2021 年 3 月 Minami こども教室 実行委員会

## 目次

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 1. 事業の背景と目的 .....          | 3  |
| 1.1 事業の背景 .....            | 3  |
| 1.2 事業の目的 .....            | 3  |
| 2. 事業の実施内容 .....           | 4  |
| 2.1 実行委員会による運営 .....       | 4  |
| 2.2 学習支援教室の実施 .....        | 4  |
| 2.2.1 小学生の部 .....          | 5  |
| 2.2.2 中学生・高校生の部 .....      | 5  |
| 2.2.3 受験支援・就職相談 .....      | 6  |
| 2.2.4 オンラインの部 .....        | 7  |
| 2.3 課外活動・勉強会の実施 .....      | 7  |
| 2.3.1 人権教育として性教育 .....     | 8  |
| 2.3.2 運動会 .....            | 9  |
| 2.3.3 連携団体等の行事参加 .....     | 9  |
| 2.4 保護者・家庭への生活支援 .....     | 10 |
| 2.4.1 相談事業の概要 .....        | 10 |
| 2.4.2 相談件数と相談内容 .....      | 10 |
| 2.4.3. 配食活動、食材配布 .....     | 11 |
| 2.5 学習支援ボランティアの募集と育成 ..... | 12 |
| 2.6 ネットワーク強化のための取り組み ..... | 12 |
| 2.6.1 小学校・中学校・高校との連携 ..... | 12 |
| 2.6.2 こども食堂との連携 .....      | 12 |
| 2.6.3 中央区子どもの居場所連絡会 .....  | 13 |
| 2.6.4 その他団体との連携 .....      | 13 |
| 2.7 広報活動・政策提言 .....        | 14 |
| 2.7.1 講演 .....             | 14 |
| 2.7.2 本・雑誌等への寄稿文 .....     | 15 |
| 2.7.3 新聞・テレビへの取材協力 .....   | 15 |
| 3. 事業の成果と課題 .....          | 16 |
| 3.1 事業の成果 .....            | 16 |
| 3.2 事業の課題 .....            | 17 |

## 1. 事業の背景と目的

### 1.1 事業の背景

大阪市は全国の政令指定都市の中では、人口に占める外国人登録者数の比率が最も高い。大阪市「外国人住民国籍別人員調査表」によると、2020年9月現在、大阪市内には約14万の外国人住民が暮らしている。大阪市の総人口の5.26%が外国人住民であるのに対して、中央区では8.46%である。日本国籍の外国ルーツの子どもたちも多くいるので、中央区は統計よりもっと多文化な街である。また、文部科学省が調査する「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況に関する調査（平成30年度）」によると、大阪府内には日本国籍と外国籍の児童生徒を合わせ、3,632人に日本語指導が必要ながわかつている。

このような「外国人集住地域」である大阪市中心区において、2012年4月に外国籍女性による実子刺殺自殺未遂事件が起こつた。二度と同じような事件を引き起こしてはいけないと、亡くなつた児童が通つていた大阪市中心南小学校が中心となり、「外国人母子支援ネットワーク事業」が発足した。関係者が問題意識と情報を共有していくうちに、中央区内には日本語での学習や教科学習に困難を抱えている子どもたち、子育てに不安を覚える外国人の保護者がたくさんが暮らしており、地域のセーフティネットが必要であるという実態がわかつてきた。そして、ネットワーク事業を基盤にし、2013年5月に「Minami こども教室実行委員会」を結成した。2013年7月～8月にボランティア養成講座を実施し、ボランティアを募り、南小学校の協力を得て、特に支援の必要な小学生に声をかけ、2013年9月より学習支援教室を開始した。

### 1.2 事業の目的

事業の目的は、以下の3点である（Minami こども教室規約より）。これらの目的達成のため、外国にルーツを持つ子どもたちを対象とした学習支援教室を運営している。

1. 地域の外国にルーツのある子どもたちの補充学習と子どもたちの支えあう関係づくりに資する活動を行う。
2. 外国人家庭の自立のために必要な情報提供や社会資源の活用機会拡大に努める。
3. 地域の多文化共生を促進させ、誰もが差別されず、のびやかに暮らしている社会づくりの一助となる。

## 2. 事業の実施内容

### 2.1 実行委員会による運営

本事業の実施体制として、上記背景のような課題解決に賛同する複数の支援団体や個人とともに、実行委員会形式による事業運営を行なっている。

実行委員構成員（団体）：大阪市立南小学校、（特活）コリア NGO センター、  
（公財）大阪国際交流センター

実行委員（個人）：13 名

実行委員長：金光敏

副実行委員長：井上泰雄、原めぐみ

実行委員：池田浩子、金カラク、甲田奈津美、古賀依枝、財前熊男、田中浩昭、  
趙有理、坪内好子、仲憲一

実行委員兼会計：瀬戸麗、呉和美

監査：（公財）大阪国際交流センター

相談役：山崎一人、福井潤一郎

事務局：（特活）コリア NGO センター

教室運営コーディネータ：12 名（2019 年度 12 名、2018 年度 9 名）

教室ボランティア：56 名（2020 年 4 月～2021 年 3 月参加実績のある方）

定例実行委員会：月 1 回

実施場所：大阪国際交流センター（大阪市天王寺区上本町）

道仁連合会館（大阪市中心区島之内）

\* 毎回ウェブ会議システム「Zoom」を設定し遠隔会議も同時に行った。

### 2.2 学習支援教室の実施

昨年度は、2 月頃からの新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、教室活動の形態が大きく変化した。2 月後半から全国の小中高が休校、さらに活動場所である中央区子ども子育てプラザも休館となった。そのため小中高生の通常教室活動は 2020 年 2 月 25 日（火）から休止せざるを得なかった。今年度も 4 月に緊急事態宣言が発令され、学校の休校が継続されることとなった。

これを受け、Minami こども教室では、速やかにオンラインに以降することを目指した。中高生対象のオンライン学習を始め、5 月から小学生もオンラインで学習をするようになった。一度目の緊急事態宣言解除後、6 月 30 日から対面での教室活動を再開したが、感染対策のために場所や時間の変更が必要となった。

場所に関しては、中央区子ども・子育てプラザは、大阪市が所有する施設で、中央区社会福祉協議会が指定管理を受け運営しており、これまで利用に際して中央区および同区社協の協力を得てきた。しかし、緊急事態宣言下では、夜間利用が停止した。また、利用が再開した後も、部屋の大きさによる人数制限があり、小学生の利用は難しいと判断した。そのため、中高生が子ども・子育てプラザで教室活動を再開することになった。小学生の部は、道仁連合町会の協力を得て、道仁連合会館を利用させてもらうことになった。なお、7月から木曜日に実施した受験生のための勉強会の際にも、道仁連合会館を使用させていただいた。

小学生が道仁連合会館を利用するにあたり、「密」を回避するために低学年と高学年で時間をずらして活動をすることにした。

### 2.2.1 小学生の部

実施日時：6月30日から毎週火曜日

低学年 17:00～18:20、高学年 18:30～19:45

実施場所：道仁連合会館3階

子ども参加者数：小学生36名（登録50名）

| 学年     | 参加人数 | 登録数 |
|--------|------|-----|
| 小学校1年生 | 0    | 0   |
| 小学校2年生 | 8    | 8   |
| 小学校3年生 | 4    | 6   |
| 小学校4年生 | 8    | 11  |
| 小学校5年生 | 2    | 6   |
| 小学校6年生 | 14   | 19  |
| 合計     | 36   | 50  |

学習内容：学校の宿題、日本語学習、対話型学習「Minami Fun Time」

発足当初より、個々の学習スピードに合わせられるように、子どもとボランティアとの一対一の指導を実施している。2015年度より、絵本や小学生新聞を用いた対話型学習「Minami Fun Time」を実施している。また、毎月第4火曜日（18:00～18:15）には、島之内図書館の読み聞かせボランティアによる読み聞かせの時間を設けている。

### 2.2.2 中学生・高校生の部

実施日時：6月30日から毎週火曜日 18:00～20:00

実施場所：中央区子ども・子育てプラザ3階

子ども参加者数：中学生24名、高校生6名、高校受験生2名（登録51名）

| 学年       | 参加人数 | 登録数 |
|----------|------|-----|
| 中学校 1 年生 | 7    | 10  |
| 中学校 2 年生 | 7    | 11  |
| 中学校 3 年生 | 10   | 13  |
| 高校受験生    | 2    | 2   |
| 高校 1 年生  | 2    | 7   |
| 高校 2 年生  | 1    | 1   |
| 高校 3 年生  | 3    | 7   |
| 合計       | 32   | 51  |

内容：学校の宿題、定期試験、受験勉強

生徒各自が課題を持って来ることができた。コロナ禍対策で机を壁に向かって並べることになったが、学習への集中という点では効果的だった。

ボランティアが増えたので1対1での対応によって学習の充実度があがった。南中学校の校長、学習支援員もたびたび参加し指導にあたってもらった。終了後に生徒の学習記録記入、ボランティアミーティングを行った。

2学期以降、高校受験生は木曜日の受験生勉強会と連動させた。

### 2.2.3 受験支援・就職相談

実施期間：7月16日から3月4日の毎週木曜日 計32回

実施場所：道仁連合会館3階

子ども参加者数：中学3年生10名、高校3年生2名

内容：

- ・数学の個人別独自作成教材
- ・英語の過去の入試問題
- ・個々の受験生のニーズに沿った学習支援
- ・自己申告書作成支援、面接指導

参加傾向：当初呼び掛けた二人の参加は芳しくなかったが、途中参加の中学既卒生はほぼ皆勤であった。結果的には①火曜・木曜とも参加、②どちらか参加、③どちらも欠席しがち、の3種の傾向になった。

受験結果： 私立高校合格4名、公立高校合格9名

看護専門学校合格1名、短期大学合格1名

なお、高校3年生2名の就職相談にのった。

#### 2.2.4 オンラインの部

中高生対象：4月10日～6月8日（月・水・金）20回

内容：Zoom や Line グループの会話機能を使って子どもとつながった。

休校期間中も学校からの課題があったので、それを自主勉強し、わからない時はボランティアに質問した。また、切りのいいところで「おしゃべりタイム」を設け、自宅待機中の不安やストレスなどの解消ができるよう心がけた。

小学生・中学生対象：5月12日～6月23日（火）7回

内容：Zoom をつなげ、休校中の宿題などに取り組んだ。小学生むけには毎回ダンスやクイズなどを行い、楽しんで続けられるよう工夫した。当初、ブレイクアウトルームをうまく使うことができず、学習に向かわせるのに苦労した。



登校していない子ども対象：8月25日（火）～3月30日（火）25回

内容：コロナ感染を恐れ、自主休校している子どもに対して、夏休み後にオンライン教室を実施した。2名の子どもに対し、ボランティアが2名ついてくれ、それぞれブレイクアウトルームに別れ一対一で細やかな対応ができた。オンラインで参加してくれたボランティアは大阪府外に住む大学生と大学院生で、彼らもまた遠隔授業を受けていたため、Zoom の操作に慣れていた。休校期間が長引き、子どもたちは不安を抱えていたが、ボランティアが励まし、勉強のモチベーションを維持することができた。

#### 2.3 課外活動・勉強会の実施

Minami こども教室に参加する子どもたちの多くは、保護者が不定休であったり、夜間に仕事をしていたりするなどの理由から、休日に遠出をする機会が少ない。そのため、通常の学習教室に加え、子どもたちの社会教育・文化的活動の場として地域の盆踊り大会への参加や、料理教室など課外学習を実施してきた。しかし、2020年度は、コロナ禍の影響を受け、地域の活動も中止となり、Minami こども教室独自の課外活動は中止せざるを得なかった。一方、新たな試みとなる性教育の勉強会や、毎年恒例の遠足の代わりとなる運動会は実施することができた。



### 2.3.1 人権教育として性教育

子どもたちの成長にともない、子どもたちの性に関する悩みが深刻になってきている。実行委員やボランティアもアドバイスに困ることもあり、外部講師を招いて性教育について勉強会を実施することにした。外部講師は、人権教育としての性教育イベントを企画する「Sexology Project」という団体に依頼した。まず大人対象の勉強会を実施し、その後小学 6 年生以上の子どもの対象の勉強会 2 度にわたり企画した。

#### ・大人対象の勉強会

実施日：2021 年 2 月 28 日（土）

参加者：大人（実行委員 9 名・ボランティア 3 名参加）

内容：性の多様性、性教育の現場と SNS、妊娠・避妊、性的同意など

#### ・子ども対象の勉強会

実施日：2021 年 2 月 23 日（火） 子ども対象 1 回目

参加者：小学 6 年生 7 名・中学生 12 名・高校生 4 名 計 23 名

実施日：2021 年 3 月 16 日（火） 子ども対象 2 回目

参加者：小学 6 年生・中学生・高校生 計 30 名

内容：講師が用意した事前アンケートを用い、子どもたちのニーズ調査をし、勉強会の内容をアレンジしてもらった。性の多様性、ボディイメージ・セルフラブ、性的同意・境界線、SNS との関わり方・ネット情報、相談サイトなどについて網羅的に教えていただいた。また、グループワークやスキットを取り入れ、子どもたちが発言しやすい環境を整えた。グループワークでは高校生がリーダーとなって中学生の発言を促したり、率先して自分のことを語ったりしてくれた。事前・事後アンケートを比較すると、性の知識クイズの正答率も上がり、性に対する意識・態度もポジティブなものに変化した。





### 2.3.2 運動会

実施日：2021 年 3 月 20 日（土）

実施場所：学校法人白頭学院建国高等学校

参加者：小学生 23 名、中学生 13 名、高校生 4 名 計 40 名

実行委員 12 名、ボランティア他 7 名、保護者 3 名 計 22 名

内容：

午前 9 時に道仁連合会館に集合し、南海難波駅まで歩き、南海電車で我孫子駅に向かった。建国高校到着後、始まりの会をし、卒業や進学、就職などの節目を迎える子どもたちにプレゼントを贈呈した。また、高校 3 年生 3 名は後輩たちに向けてスピーチをした。

その後、建国高等学校の生徒会が運動会の企画を考えてくれ、玉入れや大玉転がし、障害物競争、リレーなどを行った。小学生から大人までみんなが楽しみ、コロナ禍でたまったストレスを解消することができた。



### 2.3.3 連携団体等の行事参加

上記の課外活動は、Minami こども教室の正式行事として行っているものの他にも、連携団体等からの招待を受け、Minami こども教室の子どもたちが参加する機会があった。今年度はこうしたイベントもほとんど中止となったため、参加できたのは 1 件のみだった。

#### ◆ Rocks ForChile 2020 for children of the future

実施日：2020 年 11 月 7 日（土）

実施場所：服部緑地野外音楽堂

主催：Rocks ForChile 実行委員会

参加者：小学生 15 名（うち、しま☆ルーム 2 名）

実行委員 7 名引率

## 2.4 保護者・家庭への生活支援

Minami こども教室では、子どもを支えるのに不可欠な保護者との連携にも力を入れてきた。それぞれの子どもの状況や家庭環境、成育歴に応じた支援をすべく、登録の際には、保護者へのヒアリングを行い、承諾書にもサインをもらっている。特に見守りが必要な家庭には、区役所等へ同行をし、児童扶養手当申請等の行政手続きの支援を行った。生活に変化のあった家庭や、乳幼児のいる家庭には、家庭訪問を頻繁に行い、生活面での困難を相談、解決できるよう努めた。また、引っ越しなどの際には、ボランティアが駆け付け、作業を手伝ってきた。

このような生活支援をより体系的に進めていくために、2020 年度は大阪市中央区の事業委託を受け、「多文化共生のまち中央区をめざした保護者等の困りごと相談事業」を実施した。奇しくもコロナ禍のタイミングと重なったため、予想を遥かに超える相談件数となった。なお、事業実施の詳しい内容については、「事業実施報告書」をご覧ください。

### 2.4.1 相談事業の概要

相談方法として、まず毎週火曜日の教室活動時間中に、保護者が相談できる窓口を設置した。同時に、相談事業用の SNS アカウントも開設した。火曜日の相談会の案内と SNS 相談の QR コードを乗せた多言語のチラシを作成し、区役所や近隣の教育機関に配布した。次に、緊急事態宣言が解除されてすぐの 5 月週末に「手続き相談会」を開催した。特別定額給付金の申請用紙が大阪市民に郵送されるタイミングと重なったので、その場で申請用紙を記入し、添付書類を印刷し、帰りにはポストに投函できる形にした。また夏の時短要請により、再び家計がひっ迫していることを鑑み、8 月末には「困りごと相談会」を実施した。

### 2.4.2 相談件数と相談内容

1 年間でのべ 432 件の相談が寄せられた。相談者の国籍別にはフィリピンが 40%、韓国・朝鮮が 23%、中国が 6 %、タイ、ルーマニア、日本がそれぞれ 1 ~ 2 %であった。なお、事業開始当初、相談者の国籍のデータをとっていなかったため、27%は不明である。また、相談者の性別はデータとしてとっていなかったため、正確な男女比はわからないが、圧倒的に女性の相談者が多かった。

相談内容は、以下の 6 つに分類した。①手続き相談：行政書類への記入、コロナ関連の手続き、保険、税金、学校の手続きなど。申請書の内容を詳しく説明し、記入する項目を伝え、相談者と一緒に書類作成を行った。書類作成にあたり、相談員も不明な点は、市役所や社会福祉協議会等に問い合わせるなどして対応し

た。②生活相談：住居、生活保護、仕事、職場でのトラブル、解雇、転職の相談など。職を失ったり、減収したりした相談者に、持続化給付金や住居確保給付金、緊急小口資金などの制度について情報提供した。③医療相談：病気、妊娠・出産、通院に関する相談など。妊婦の相談者に対して、保健福祉センターや年金事務所への同行支援を行った。④子育て相談：進学、受験、就学支援、奨学金の相談など。就学年齢の子どもがいる相談者には、Minami こども教室の活動について知らせた。Minami こども教室の教室活動と時間を重複させることで、外国人の保護者とその子どもたちが安心して学べる場を提供した。⑤法律相談：家庭内暴力、離婚、再婚、認知、在留資格の更新、日本国籍取得手続きなど。大阪弁護士会、子どもの権利委員会に関わる弁護士と連携し、必要な情報を提供した。

相談件数の内訳はグラフの通りである。

| 相談方法<br>内容 | 毎週火曜日の<br>窓口相談 | 手続き<br>相談会(5月) | 困りごと<br>相談会(8月) | SNS・電話 | 合計  | 比率   |
|------------|----------------|----------------|-----------------|--------|-----|------|
| 生活相談       | 50             | 86             | 24              | 1      | 161 | 37%  |
| 手続き相談      | 32             | 79             | 11              | 1      | 123 | 28%  |
| 医療相談       | 0              | 32             | 8               | 0      | 40  | 9%   |
| 法律相談       | 10             | 6              | 1               | 0      | 17  | 4%   |
| 子育て相談      | 5              | 0              | 5               | 0      | 10  | 2%   |
| その他        | 7              | 69             | 0               | 5      | 81  | 19%  |
| 合計         | 104            | 272            | 49              | 7      | 432 | 100% |

#### 2.4.3. 配食活動、食材配布

連携団体である「しま☆ルーム」と協力して配食活動を行った。コロナ前は、道仁連合会館に毎週水曜日にみんなが集まり、ボランティアの手作りの食事を食べていたが、コロナ禍においては様々な制限があった。その反面、家計が逼迫していくのが目に見えていたため、寄付を募り、配食数を増やすことにした。水曜日だけでなく、曜日を増やし、週に2～3回お弁当や食材を配った。今年度、しま☆ルームとともに配った食材の数はのべ7,000食におよぶ。また、以下のよう

|     | 5月の相談会 | 8月の相談会 | 12月の食材配布 | 2月の食材配布 | 合計  |
|-----|--------|--------|----------|---------|-----|
| 配食数 | 200    | 100    | 150      | 200     | 650 |

## 2.5 学習支援ボランティアの募集と育成

教室での子どもへの学習支援はボランティアが担っている。教室運営に欠かせないボランティアの方々との問題意識の共有は大切である。参加する子どもたちの増加に伴い、新たなボランティアを募集し続ける必要がある。募集方法としては、ボランティア募集のウェブサイトや大阪市のポータルサイト、関係のある大学教員などへの呼びかけ、実行委員やボランティアの口コミなどである。

これまでは、第4週火曜日をボランティア見学会として設定し、見学会参加者らに教室についてのオリエンテーションをした後、子どもたちの側で教える体験をしてもらっていた。しかし、今年度は、コロナ感染を予防するため、ボランティア見学会を2回しか実施できなかった。その分、熱心な方々がボランティア登録をしてくださった。

また、ボランティア研修会として、上記の「人権教育としての性教育」を実施した。

## 2.6 ネットワーク強化のための取り組み

### 2.6.1 小学校・中学校・高校との連携

設立当初から南小学校の校長が実行委員として関わっており、実行委員会で定期的に情報交換を行っている。学校と実行委員会が定期的に子どもの様子や学習課題について共有することによって、子どもの生活の変化や緊急を要する事態にも対応できている。

南小学校には、2020年7月29日（水）、30日（木）、31日（金）に実施された保護者懇談会の後、Minami こども教室の懇談会の時間をとっていただいた。3日間で18名の保護者と懇談することができた。また、中央小学校や高津小学校とも連携を模索している。

大阪市立南中学校とも情報交換会を実施してきたが、今年はコロナ禍ということで実施することができなかった。その代わりに南中学校の教頭先生を通じて情報交換をした。また、南中の校長先生や教諭の先生が教室活動に参加してくれたため、学校との連続性を持って子どもたちが学習に取り組むことができた。

進学先の高校との連携も進めている。

### 2.6.2 こども食堂との連携

2017年から毎週水曜日に中央区島之内で開催している「しま☆ルーム」には、Minami こども教室に通う子どもたちがたくさん参加しており、合同で料理教室を主催したり、盆踊り大会に参加したりと協力関係を深めてきた。

特に2020年2月後半以降の新型コロナウイルス肺炎の感染拡大により、教室

の通常活動ができなくなってしまった一方、しま☆ルームは「食堂」という形ではないが弁当配達を継続していた。しま☆ルームの配達には、Minami こども教室の実行委員も参加し、配達時に子どもたちの様子を確認しながら、見守りを続けることができた。

また、今年度から大阪府中央区社会福祉協議会の紹介で、公益社団法人「全国環境対策機構」主催の「JEO 子ども食堂」に参加することになった。この子ども食堂は、月に1度土曜日に、中央区南本町にある「一華」というレストランで開催されており、Minami こども教室に通う子どもたちや保護者を引率している。

### 2.6.3 中央区子どもの居場所連絡会

中央区内の子どもの居場所活動を行う団体が連携・協力し、子ども支援を拡げるための集まり、「中央区子どもの居場所連絡会」が2018年に発足した。事務局は中央区社会福祉協議会であり、Minami こども教室の他に、上記のしま☆ルーム、JEO 子ども食堂、ダニエル教室、フリースクールフォロ、こどもひろばわくわく探検隊などの団体が連絡会に入っている。

コロナ禍でさらに子どもたちを支える取り組みが必要となっているため、以下のように「子どもサポートフォーラム：子どもの幸せ！立ち上がれ！子どものために！」を企画・開催した。

実施日：2021年2月27日（土）13:00～16:00

実施場所：中国料理大成閣4階大宴会場

\*後日、当日の動画を配信した。

内容：レモンさん（山本シュウ）による基調講演、子どもたちによる音楽のパフォーマンス、パネルディスカッション「子どもを支える活動者・協力者を増やす」

### 2.6.4 その他団体との連携

発足以来、子どもたちが暮らす島之内地区の道仁連合町会からも手厚い協力をいただいている。具体的には、町会主催の行事への参加や、連合町会が有する道仁連合会館という施設の利用などである。Minami こども教室のような非営利団体が活動する場所が限られているこの地域において、公共性の高い施設を使用させてもらえることは大変ありがたいことである。

連携団体である「こどもひろば」とは、特にダイレクトで高校を受験する子どもについて情報交換を行った。大阪弁護士会の弁護士には相談会での法律相談、また個別のケース相談をしていただいている。

Minami こども教室の子どもたちの約6割がフィリピンにルーツをもっていることから、2019年度より、フィリピン人コミュニティとの連携を模索している。今年度は、5月と8月の相談会の際に相談員や通訳として、フィリピン人コミュニティのリーダー、複数人に参加していただいた。

## 2.7 広報活動・政策提言

### 2.7.1 講演

- ◆ 龍谷大学国際社会文化研究所主催「ウェブセミナー：コロナ禍と在日外国人～関西在住フィリピン人への影響と支援」2020年6月12日（原めぐみ）
- ◆ なくそう！子どもの貧困全国ネットワーク主催「子どもの貧困対策情報交換会～コロナ禍、海外にルーツをもつ子どもとその家族はいま」2020年7月19日（原めぐみ）
- ◆ Rocks For Chile「子どもたちの未来のためのトークセッション」2020年11月7日（原めぐみ）
- ◆ 名古屋国際センター主催外国人児童生徒サポーター研修「地域でのサポートを考える：大阪市 Minami こども教室」2020年11月28日（原めぐみ）
- ◆ 大学教育における海外体験学習研究会「外国にルーツをもつ子どもたちと学ぶ大学生：Minami こども教室の事例から」2020年11月29日（原めぐみ）。
- ◆ JSURP まちづくりカレッジ 2020-002 主催「草の根まちづくり最前線～現場から学ぶ草の根まちづくりの実態と求められる技術」「多文化共生の現在地～大阪ミナミでの外国人家庭が取り残されない社会づくり」2020年11月30日（金光敏）
- ◆ たいしょう人権展・FM局 YES-fm「人権って〇〇なんだよ 本当は～外国にルーツを持つ子どもたちの現状と課題」2020年12月9日（金光敏）
- ◆ 東京都立大学都市環境学部「市民社会論」2021年1月12日（原めぐみ）
- ◆ ブレイクアウトセッション「最後のひとりまであきらめない～支援からとりこぼさせる地域、人たちの側で」2021年2月15日（金光敏）
- ◆ 第25回全国地域福祉施設研修会「共生（とも）にいきるとは～新型コロナウイルス感染拡大のただなかで」2021年2月20日（金光敏）
- ◆ 寄せ場交流会 2020「コロナ禍における外国人支援と現場」2021年2月21日（金光敏）
- ◆ NPO 法人 IKUNO・多文化ふらっと主催「公開セミナー：外国ルーツの子どもたちを支える～大阪市の西成・「ミナミ」・生野の市民活動の現場から見てきたもの」2021年2月23日（原めぐみ）
- ◆ 武庫川女子大学生活美学研究所主催「セミナー：地域日本語教室と子どもの居場所」2021年3月6日（金光敏）



### 2.7.2 本・雑誌等への寄稿文

- ◆ 「多文化社会のための共闘と共生：Minami こども教室の日常的実践から」 笠井賢紀・工藤保則編『共生の思想と作法：共によりよく生き続けるために』法律文化社, 2020 年 3 月. 92-107 頁. ISBN:4589040573.
- ◆ 『Migrants Network』10 月号「教育保障をめぐる困難～新型コロナがもたらした影響と課題 大阪市 Minami こども教室」
- ◆ 「コロナ禍の歓楽街で働く外国人親子を支える：Minami こども教室の取り組み」『月刊自治研：コロナ禍の在日・滞日外国人』自治研中央推進委員会, 2020 年 11 月 62 巻 734 号 32-37 頁.

### 2.7.3 新聞・テレビへの取材協力

今年度も外国にルーツをもつ子どもたちの学習支援教室のモデル事業として、さらにコロナ禍における最前線の支援活動について、複数のメディア関係者から取材依頼を受けた。継続取材も含む。

- ◆ NHK「かんさい熱視線」2020 年 4 月 17 日
- ◆ NHK「おはよう関西」2020 年 4 月 27 日
- ◆ 毎日新聞 2020 年 5 月 7 日「新型コロナ、不安定雇用の外国人家庭を直撃 「必要な生活情報届かず」」
- ◆ 朝日新聞 2020 年 5 月 28 日夕刊「外国人家庭ミナミが支える」
- ◆ NHK 2020 年 5 月 31 日「関西ニュース」
- ◆ 朝日新聞デジタル 2020 年 6 月 1 日「「この街で育つ子を」 コロナ下の外国人支えるミナミ」
- ◆ 毎日新聞 2020 年 6 月 2 日地方版「新型コロナ 在住外国人、営業自粛で困窮 支援相談会に 300 人「想像以上にひどい状況」」
- ◆ 朝日新聞 2020 年 6 月 8 日「10 万円、夢のまた夢 日本に長年住んでも届かぬ人々」
- ◆ NHK「噂の保護者会」2020 年 11 月 7 日
- ◆ 朝日新聞デジタル 2020 年 12 月 21 日「「年末年始を楽しく」大阪・島之内で食料無料配布」
- ◆ 朝日新聞 2021 年 2 月 18 日「(私の視点)コロナ禍の公的支援 在留外国人にも届くように 金光敏」
- ◆ 毎日新聞 2021 年 3 月 13 日「「500 円玉貯金が最後の金」シングルマザー、テレサさんの叫び」
- ◆ KBS（韓国放送公社）「世界は今」
- ◆ NHK「新日本風土記」
- ◆ ドキュメンタリー映画『(仮)居場所のチカラ』（継続取材）

### 3. 事業の成果と課題

#### 3.1 事業の成果

Minami こども教室の事業成果を以下にあげる。

- ◆ 学習の継続のサポート： 緊急事態宣言を受け、学校の休校が長引き、学校が始まっても分散登校だったり学校生活が安定しない 1 年だった。Minami こども教室も対面での教室活動をしばらく実施できなかったが、オンライン活動を早い段階から導入でき、子どもたちと繋がることができた。休校中の子どもたちの不安やストレスの解消にもつながったと考える。また、オンラインで繋がっていたこともあり、対面活動が再開してからの子どもたちの学習意欲も高かった。
- ◆ 進路保障： 今年度、Minami こども教室に通っていた中学 3 年生は 10 名、中学校既卒で高校進学を目指していたのが 2 名いた。7 月から受験サポートを始め、個々の志望校や学習進度に合わせてサポートすることができた。結果として、全員が志望校に合格した。当初、高校進学自体に意欲的でなかった生徒も、教室でコーディネータやボランティアに励まされ、高校進学という道を自ら選んだことも進路保障という点において意義深かった。
- ◆ セーフティネットとしての機能： 子どもたちがコーディネータやボランティアに何気ない日常のことを相談したりつぶやいたりするようになっていく。何かあったときに信頼できる大人が近くにいることを子どもたちが感じ取ってくれているのかもしれない。また、子ども同士の仲間意識から場所の安心感が芽生えているように見える。今年度はコロナの影響で子どもたちだけでなく、保護者からの SOS が多かった。コロナ前のつながりがあったからこそ、有事の時にも相談の窓口になることができた。
- ◆ ネットワークの力： 特にコロナ禍では Minami こども教室だけでは解決できない課題もたくさん出てきた。特に生活相談事業や食材配布プロジェクトは、他団体の協力や寄付なしに成し遂げることはできなかった。これまで連携してきた団体や、新しくつながった個人や団体と力を合わせ、コロナ禍の課題に立ち向かうことができた。
- ◆ 活動発信： 今年度は特に活動を発信する機会が多かった。皮肉にもコロナの影響を一番受けやすい地域で活動してきたため、活動を縮小するどころかより活発化せざるを得なかったことで注目が集まったと考える。少しでも外国人住民が抱える問題を世の中に知ってもらい、活動を続けることとともに希望を見つけるという共感の輪を広げたいとの思いから講演会などで発信し、メディアの取材に応じてきた。

### 3.2 事業の課題

本事業には以下のような課題もある。

- ◆ 低学年への対応： 活動開始当初は小学 3 年生からを受け入れ対象としてきたが、最近では小学 1、2 年生も登録している。低学年用の教材が不足しており、また対応の仕方も中高学年とは異なってくるので小学校との更なる連携の中で低学年の学習支援を考えていきたい。
- ◆ 特別なニーズのある子どもへの対応： Minami こども教室には特別支援が必要な子どもも通っている。単に言語や文化面だけでない支援が求められるが、対応できるスタッフが少ないのが現状である。今後、専門家を交えてケース会議や研修会などを行い、包括的な見守りができる体勢を整えていきたい。
- ◆ 進学支援： 4 年前から本格的に中学 3 年生を対象に受験勉強のための学習支援を開始した。毎年その年の中学 3 年生の背景に寄り添って学習支援を行っている。しかし、最近では継続して教室に通う高校生が増え、その進路進学サポートがより多様化・専門化してきている。Minami こども教室から巣立っていく若者たちが、経済的に自立した生活を歩んでいくため、実行委員など関わる大人が、奨学金制度や進路進学の選択肢についての知識を得る必要がある。
- ◆ 就労支援： 高校 3 年生の中には進学せず就労を希望する者もいる。就活のアドバイスや就職するにあたっての情報提供が足りていないことがある。これは、保護者の就労支援にも言えることで、コロナの影響を受けて失業した保護者への仕事斡旋や職業訓練などはノウハウがない。自分たちにはない資源は、他団体から協力してもらわなければならない。そのためにも連携団体との協力関係をより一層強化していく必要がある。
- ◆ ボランティアとの意思疎通の問題： 実行委員とボランティアの意思疎通がうまくいかないことがあった。ボランティアの方々の意見をもっと取り入れながらより良い活動につなげられるように、学習終了後のミーティングで意見を聞く機会をもっと持たなければならない。また、情報伝達に齟齬がないように気をつけたい。新規ボランティアの受け入れに際しても、ボランティア側の動機と Minami こども教室の活動方針とにミスマッチがないよう、見学会の際には十分な情報提供を行っていく。

以上